

『小さいときから考えてきたこと』から
 三年〇組 〇〇〇〇
 この本の作者、黒柳徹子さんが小さい時、
 うれしいなあと思う瞬間は、雨降りの日、家
 族皆でむかえる夕食の時だったそうです。
 「みんないる。一緒に家の中にいる。電気が
 明るくついて、雨で早く帰って来た父と母と
 弟と顔を見合わせて笑う。」そんなひと時が本
 当に幸せと思える時だったそうです。
 現在ユニセフの親善大使として、多くの国
 を訪問し、実際に自分の目で貧しさや戦争の
 ために死んでいった子どもたちを見るたびに
 黒柳さん自身の幼いころに思った幸せ感との
 大きな違いに驚きを感じていることでしょう。
 平和な日本に生まれ、今自分が、どれほど
 幸せなのか考えてもみなかった私でしたが、
 先日テレビで写真家の藤井秀樹さんの地雷の
 ために足や手を失ったカンボジアの子どもた
 ちを見た話を聞いて、戦争の恐ろしさを改め
 て感じました。黒柳さんが訪れたアフガニス

読んだ本

『小さいときから考えてきたこと』 黒柳徹子

私よりずっとたくましく強い子どもたち、生
 笑って言えるぐらいに希望を失っていません。
 帰ってくるから私はここで待っているの。と
 子どもは、「私のお母さんは、絶対、いつか
 いーノー・ホープ」とわめいているけれど、
 こんな悲さんな生活の中で大人は希望がな
 めにこの世に生まれてきたんでしよう。
 あわせの毎日、この子たちはいったい何のた
 ている女の子、生きることと死ぬことが背中
 の子を背負って銃で自分の村に発砲させられ
 にさらわれ、十五歳で子どもを産ませられそ
 自分の手足も切りはなされた男の子、ゲリラ
 両親、兄弟をゲリラにより目の前で殺され、
 べ物のために売春をしている十二歳の女の子、
 す。エイズに感染しながらも家族の明日の食
 が生きることと真正面から立ち向かっていま
 た。そこでは、私よりも、もっと幼い子ども
 めにたくさんの子どもたちが死んでいきまし
 べ物がなく飢えに苦しみ、飲み水も汚水のた
 タンでも二十一年間も続いた内戦のために食

神様が人間一人に与えている天使の歌声でした。
 道雲に思わずお願いさせてしまうほどの強い
 の歌声は、黒柳さんに平和への願いを空の入
 和なアフガニスタンの小さな女の子のクラス
 このタリバンに支配されていない比較的平
 りです。でも、私たちはこの国の子どもです。
 たちは、平和がほしいのです。戦争はうんざ
 らば、いつでもさしあげましょう。でも、私
 好きです。もし祖国が私の命を必要とするな
 「私たちはこの国の子どもです。この国が大
 ことなのかよくわかっていないはずなのに。：
 しょうか。争いというものがどんなに愚かな
 世界の各地で戦争や紛争がおこっているの
 望まない人はいないはずなのに、なぜ、今も
 いでいきます。誰もが命を大切に思い平和を
 への強い意志が希望を失わない日々へとつな
 に悲しい日々であつたとしても、生きること
 か。どんなにめぐまれていなくても、どんな
 きるということへの一生懸命さからでしょう

私はまだ中学生、明日食べる物が無い人に
 いないと思いましたが。
 生きていけることの真剣さ、そして感謝が足
 いることが当たり前なことと想っている私は、
 の子どもたちから見たら、今、幸せに生きて
 日希望をすてずに命を大切にしているこの国
 くなつたのは自分のせいだと責めながらも毎
 中でもいつでも家族を思いやり、父や母が亡
 考えさせられました。どんなにひどい状況の
 自身が今日一日をどんなふうに生きているか
 発展途上国の子どもたちのことを思い、自分
 私は、明日生きられるかどうかもわからない
 いうこの時代に平然と行われているのです。
 いうおろかなできごとが宇宙にも行けるかと
 何の罪もない子どもたちを巻きこんで戦争と
 たり地雷を取り除くことはできないのです。
 種をしてあげたり、病院や学校を造ってあげ
 円もする武器を作ることはできても、予防接
 せとはどんな幸せをいうのでしょうか。一億
 平等ではないのでしょうか。そして本当の幸

黒柳さんのような温かい気持ちを持って！
 う意味の深さと重さを考えていきたいです。
 なものかもしれない、けれど生きていくとい
 るようにもっと勉強もします。私の力は小さ
 思います。学んだことが世界の平和にいかせ
 ように私も今日をしっかりと生きていこうと
 つなぎ世界が一つになって肩を組んで歩める
 も早く来るように子どもがそして大人が手を
 幸せを安心して求められるような日が一日で
 れません。世界中の子どもたちがささやかな
 うなそんな小さなことの積み重ねなのかもし
 て家族が一緒にいて何かうれしいと思えるよ
 本当の幸せというのは、家の明かりがつい
 絶対に忘れない大人になりたいと思います。
 べて尊くかけがえのないものだということ
 ゆとりを持ち、自分の命も他の人の命も、す
 求めるのではなく他人の心を思いやれる心の
 く心にきざんで、自分だけの幸福だけを追い
 のような痛ましい現実があるということ
 対しても大きな役には立てません。けれどこ